

週刊時事経済

発行所 17 町 社 新川 新聞 社
平 市 新 川 新聞 社
時 事 経 済 新聞 社
主 幹 田 原 登
主 電 話 4775
毎 週 土 曜 日 発 行
定 価 3 カ 月 百 円
一 部 五 円

つり具

季節の用品
揃えました。
うらべ
平市銀座町
(一丁目) 目黒
電話三〇九〇

四月二十六日運輸省で開いた五市公営バス問題の公聴会は石城の將來に於ける大問題だけに本社が前号に引続いて公営バス側と常盤交通側の主張の概要を掲載した。

県会も満場一致決議

鈴木喜政 独占の為県民の利益は大

石城五市は昭和二十九年、及び昭和三十一年に、特異性を有し、さきに東北開港法による工業地帯としての指定を受け、現に進行中の常盤総合開発事業は、これら各市を一つとして、工業地帯化しようとするものであり、開港後は、東京工業地帯に比すべき地域となること、を約しているところである。ある市長が住民の要望を取り入れ、これを履行して行くことは当然のことである。この石城五市はそれぞれの特異性を有し、さきに東北開港法による工業地帯としての指定を受け、現に進行中の常盤総合開発事業は、これら各市を一つとして、工業地帯化しようとするものであり、開港後は、東京工業地帯に比すべき地域となること、を約しているところである。

県会決議の意見書

福島県石城五市(平、磐城、勿来、常盤、内郷)の各市長は、町村合併促進法の適用を受け、昭和二十九年及び昭和三十年の両年度間に隣接各町村を合併し、あるいは関係町村の合併により設置された市であるが、各市に各々その境界を接し、それぞれ特異性を有しながらも、政治、経済、文化及び交通等に關しては、常に密接な連繫と協力を保持している地帯であり、殊に現に進行中の常盤総合開発事業は、これら各市を一丸として工業地帯化しようとするものであり、開港後は、東京工業地帯に比すべき地域となることを約しているところである。

福島県石城五市(平、磐城、勿来、常盤、内郷)の各市長は、町村合併促進法の適用を受け、昭和二十九年及び昭和三十年の両年度間に隣接各町村を合併し、あるいは関係町村の合併により設置された市であるが、各市に各々その境界を接し、それぞれ特異性を有しながらも、政治、経済、文化及び交通等に關しては、常に密接な連繫と協力を保持している地帯であり、殊に現に進行中の常盤総合開発事業は、これら各市を一丸として工業地帯化しようとするものであり、開港後は、東京工業地帯に比すべき地域となることを約しているところである。

値上したら安くなる

伊藤旭氏 であらめ料金と公述

私が三十四年一月病氣治療のため平及び高久の病院へ五日間、小名浜水産校人口停留所を基点とし、片道循環線に乗車した際の経験と、毎日乗降に得たる体験から、三、

一、地方住民の福祉増進という公益を度外視した営利企業であるために、現状のまま推移するときは、前に述べましたような石城地方の合併の上、又地域住民の福祉増進の上に、一大支障を来すことをおそれ、平市を始めて五市共同の公営バス事業を企画し各市議会の議決を経て地方自治法の規定に基づき、一部事務組合を組織し、本免許申請に及んだ次第でありまして地方自治体の理事者として当然の施策と信するものである。福島県議会におきましても本事業は、常盤地方開発事業の組合管理者から申された通り、地方住民の福祉増進、必要不可欠のものとして、去る昭和三十四年十二月の定例県議会に議員全員の提案による、緊急決議案を提出し、満場一致で可決し、関係行政庁に対し、意見書を提出し、速かに免許を求めようとするものである。

知見が因

五市公営バス事務局で造った公聴会に必要資料は当日(四月二十六日)朝になって審議委員に提出されたが、新聞二つ折りの大きさで五十頁、独占企業の県下のバス四社の現況から人口の自然増加、五市の年間一人当たりバス利用回数、需要に対する供給不足の事例、五市公営と常盤の競争状況、人口密度及び動線など微に入り細に入り合理的に書いたもので、そのために公聴会において審査委員からの技術的質問もいろいろあったが、その回答は何頁を御覧下さいと、ただで御覧下さいと、翌日の資料を全国公営バス協会にも参考に出したところ、その見事な調査資料にこれに完結した、これまでにない、と賞讃されたところである。

一、区間も二区間も切符を売らないで、降車の際、現金を受取りつり銭の場合はいれやみを言われ、不愉快な事象もある(四面へ続く)

ササールの右に出ずる者なし

藤越

平の代表的土産品
平の生んだ世界的作曲家八橋検校の
作曲せる名曲「六段の曲」を記念する
録音 六段最中
平凡
六段本舗 平 凡 平 駅 前
電 2 5 0 9

日曜デザイナーの
あなたに
ご案内致します
M.アサヒ
ブロードプリント 八五円より
純毛フェイブローラー 一三〇円より
その他豊富取扱ました。
鈴藤
8時30分—6時30分

公営バス免許を願う

田原登



戦して読者の判断に資することにとつとめると共に、私見も述べたが、再び思つたまゝを書くことにした。

五市公営に反対する人々の意見はどれも感情論で確固とした資料にもとづく科学性にした資料にもとづく科学性に

直感に直線を画くよりもむしろ正しくなて言葉もあるが普通人の直感は大して当にならない。

次に四市は平市との義理で名を連ねただけで五市の結束は乱れていると述べているが五市は夫々市議会の決議があ

り市長はその執行者として忠実に決議を執行しなければならず、そのために公聴会において五市長は何れも結果は面い、常交側の宣伝はデマだと口をそろえて述べているので結果は乱れていると云ったところでおかしいものではないか。

更「二宮公、又は壺巻一海」

ないで、これをホゴにしたなら新市の人々をデマにしたことになる。それでバス問題は面倒な問題だとは知りながら、この問題に乗り出したのである。

四市の方でも常交一社の独占企業には満足していなかったので幸い常磐総合開発という

「二宮公」は「壺巻一海」と同

夏川橋本市に運営に財源のために、諸橋市長が公約したと云うが、町長が問題が起こったとき町民の合併条件の一つに市営バスを強く要望されたので、諸橋市長はその要望を容れて合併したので若しも諸橋市長はこの条件を実施しなかったら、市営バスは石坂にとつては将来有望な問題が起つてきたのでバス問題は一市よりも五市の方が意義があるので四市と相談の結果五市公営に発展したもので、その間何らのインチキもなければ掛りもなく自由に自然に発展して来た問題なのである

一般大衆は詳しい事情などあるのか、ないのかそんなことにはあまり関心はないが、現在よりも少しでもバス事情が便利になることには無条件で賛成であつて不便になるのだつたら反対なのだ。

公営バスをやると損をして税金を高くとられるなどという様なうまい事業である。これ

来るものなことは法律で、できないことになつてゐるのでちつとも心配する必要はない

五市で僅かな事業資金を出し合つて政府の低利資金をかりて仕事に着手できる。税金がかからない公益事業でありひとつのフロンツで相撲をとる

政府は公聴会で五人の市長の口から直接石城三十余万人を代表する真意をきき専門的な参考資料を見ているので

ものだ。われわれの生活は戦前以上によくなつたが、夜晩面もゆつくり見られない様では文化石城とは義理でも云い得ない。

宣位をするのでそれに恐ろざ
 らしいものも出るから、そうし
 たデマは飛ばさない方がよい
 公營側ではバスを実施でき
 りは必ずしもパスするという科学的
 な調査資料によって確信をも
 っており、万一にも損をした
 ところで税金にぶつかかって
 もあるようだが、今後の石城
 の発展のために常交と適当な
 競争をさせて、新市の方々も
 夜間つくりと映画を見ても
 家に帰れるぐらいなサービス
 をしてもらわなければ税金を
 払っている服装がないという
 批判に苦しむ。

いつでも売るべきなのに、午後四時半までしか売らないの、で極めて不便であり、公営バスが申請されて、つい最近に至り午前八時から午後六時までとなったが、利用者の立場を無視した販売方法である。

四、回教券の販売について

営業所の窓口のみで販売をし

い。なぜ販売しないのか、回数券の制度があっても、真に利用者の便宜を与えていないのは、会社の善徳の御都合主義である。

五、混雑のため、運行ダイヤはあれど常に狂いがちである

野球場にも寄附せず

常交の不協力は遺憾

五市公営バス公聴会で常盤交通は地方公共団体に協力が足りない」と攻撃されたのに対し、野崎賢一郎事務長が昭和三十一年から三十四年までに一千百三十二万五千五百九十七円を協力した。その内寄附金は六百六十七万円で、あとは道路損傷負担金であると発表した。これに対して公営バス側では、その具体的な内容がなかったことは遺憾であり、常盤交通が隆盛となった昭和廿七年以来興と五市には、錢の寄附もしていないと云っている。三十年から三十四年までに五市

二十七年以來少しも協力しないで公共の爲につくしている」と云ふた義理ではあるまい」と公管側は云っている。

常交は県条例による道路損傷負担金は出した。昭和二十五年四十万円。二十六年二十一万三千二百二十五円、二十七年四十一万九千二百五十円だけ。これは常交ばかりでない自動車所有者がみな負担したのである。その条例が廃止してから県と五市には少しも協力していない、具体的に公共団体に協力した金額を公表して欲しいと公管側は云っている。

話がよく聞く。

る。常交が協力しない、最近の一例は平市の公設野球場の寄附は小学生まで協力しているのに常交は一銭もしていない。平商工会議所の建築にも協力しない。

公管バス側の話―常盤交通は目立った寄附をした話はないがことがない。公聴会で二百百万円支出、内寄附金六六七万円、あとは負担金だといったがどの方面にいくら出したという具体的説明はなかった。常交に寄附を申し込んではないとつけられて憤慨している人の話がよく聞く。

バスが申請されておる当市の川平線、高野線地区はバスが唯一の交通機関で全くバスに依存しておる処で、高野線の宮より平までの区間は現在三十分毎に常盤交通が運行しているが、日中でも往復其職員であり、又高野より宮の区間は朝の始発時間七時十分、高野のたためこの間の通勤者は約四杆の距離を宮まで徒歩で来てバスに乗りするといふ現状であります。又夕方五時二十分後五時二十分が最終バスで、日常の用務を充分はたさない実情である。

人口密度は高
バス経営
熊田正夫氏

問いが
日は悪い
独占の弊害を公述
に倅つて居ない。かつて私が
兵庫県明石市に住んでいた当
時、市官バス運行計画を主催
した事があり、明石市は既に
円滑なる運営をしているよう
に聞き及んでおりますが、先
進地阪神工業地帯の一端、明
石市の交通状態、地勢、経済
人口、気候風土等、実によく
地味に類似している。

今更の二、三日お君ののみを拜見したい慈意におちいつている。勿論利潤のない企業は考えられないのも無理なことだとして止むを得ないと書いて大衆の要も声を無視して、不便をかけたものと書いては絶対に許得ない。私は常磐交通の経営にかんべス利用者として弊害の若手を指摘して参考に供したい。

一、現行のバス運賃ダイヤの終が早すぎ、特に夜間国鉄急行、準急との連絡に欠けてゐる。

二、料金は運輸省の認可を得る必要がなく、見識は相當の

客が事故死した例がある。また、従業員が一般に親切で車掌がよく訓練されていないため、乗客に対し親切味がなく礼儀をわきまないものが多い。特に満員の時は乗客を多く貨物扱いするひどいものがある。又沿線の地名や名勝旧跡を知らない車掌が多いので外来客が困惑している状況をよく見かける。この様な会社がたゞ客を乗せればよいと言つ

満員バスに不満

內鄉市 吉田榮氏公述

▽常盤市 一、九五〇万円
▽磐城市 二、六五〇万円
▽勿来市 一、八〇〇万円
計 一二、六四〇万円

で道路の改良につとめて来た五市がこうして市民の血税によって道路を良くしているその道路を利用する常交は去る

五市の公営バスの事業に対してしましては長い間深い関心と期待をもつていた内郷市四万の市民、いかなる勤労者の大多數はこの公営バス実現を急願し、かつ期待してをる。

わわれわれ市民の日常生活にもその恩恵に浴しておることは事実であるが、当地方を一手に独占しておる常盤交通バスの運行実態に対しては甚だ遺憾の点が多い。

私達の住む内郷市は炭礦の街

り、その利用が激増し、ますます混雑を極めている状態で、常磐炭礦に勤務するわれわれも日曜、祭日等の公休日を利用して近郊に出る場合バスはいづれも満員で老人、子供等は乗車することが出来ず、四人も見送るのが通例となつて

である。

人口密度においても、福島県の平均一五二人に対し、石城五市の平均は六九七人という高度を示しており、いきおい交通量も著しく多いのである。

前述した明石市のような運命にあるものと思考致す次第です。たまたま、当地区に五市連合バス運行計画のあるを聞き、是非ともこれが実現化を切望する。当地区のバス運行計画は常盤交通によって完全に独立企業化している現況を

三、定期券販売について
 実際販売は一月で三月分を中止している。監督官庁には現在も三月分の屈出がなされ認可されているのであるが、特定の人は三月分も販売すると言つのはいかなる理由か

即ち、営業時間が収益率のよい時間帯のみ営業している。小名浜地区の場合、バスの終発時刻が二十時前後である。利用者が二十時ころまで望み、この時間帯に常磐交通は営業収益の最大化を考え、実行しないことはよいと考えられる。

人口密度は高いが

バス経営は悪い

熊田正夫氏 独占の幣害を公述

私は、公立学校の教員で、磐城市に居を定めて居る。私は高校教員として職業柄、比較的広範囲の地域社会の子供達並にその父兄との接觸が多い従つて彼等の言辭や行動に接する機会もまた多い。又一面私自身バス通勤者なので利用の状況もよく承知致している。当地方を地勢的に見て、東に太平洋をいだき、西に阿武隈山脈を擁した東西三十五キロ南北四十五キロという沿岸地帯の平坦なところで、氣候的にも極めて温暖な住みよい所である。

人口密度においても、福島県の平均一五二人に対し、石城五市の平均は六九七人と言つ高度を示しており、いかに交通量が著しく多いのであるが、残念ながら交通機関は之

に倅って居ない。かつて私が兵庫県明石市に住んでいた当時、市営バス運行計画を主唱した事があり、明石市は既に円滑な運行をしているうちに聞き及んでおりますが、先進地阪神工業地帯の一端、明石市の交通状態、地勢、経済人口、気候風土等、実によく当地区に類似しているのである。

当地区が常磐地区工業地帯として、京浜地帯の表裏、樞化することも決して夢ではなく、前述した明石市のような運命にあるものと思致す次第です。また、当地区に五市連合バス運行計画のあるを聞き、是非ともこれが実現化を切望する。当地区バス運行計画は常盤交通によって完全に独占企業化している現状を

三、定期券販売について
 実際販売は一月で三月分を中止している。監督官庁には現在も三月分の屈出がなされ認可されているのであるが、特定の人には三月も販売すると言つのはいかなる理由からか。
 又販売時間は営業時間中には

二、料金は運輸省の認可を得たはずだが、現実には相当の矛盾が認められる。即ち車掌によつて同区間の料金が違つたり、子供の料金が特に不定である。

一、現行のバス運賃ダイヤの終了が早すぎ、特に夜間国鉄急行、準急との連絡に欠けてゐる。

参考として、
 一、 客に許得ない。私は常磐交通の経営にかゝるバス利用者として弊害の若干を指摘して参るに供したい。

車掌がよく訓練されてい
ないため、乗客に対し親切味がな
く礼儀をわきまがないものがあ
る。特に満員の時は乗客を
荷物扱いするひどいものがある
。又沿線の地名や名勝旧跡
を知らない車掌が多いので外
来客が困惑している状況をよく
見かける。このような会社が
たくさん客を乗せればよいと言っ
ては当然で、サービス精神に欠け
た運営である。

七、一族一家の経営であるの
で利潤追求がはげしく利用者
と本位の運営がなされていない
。即ち、営業時間が収益率のよ
い時間帯のみ営業している。小
浜地区の場合、バスの終業
は二十時前後である。利用者
として二十時で帰宅して望み
たいが常盤交通は営業収益の
このみを考え、実行しない
のではないかとと思われる。

スラック式
東和シャッター
最高の戸締・最低の価格・最後迄奉仕
久野金物店シャッター部
平市三丁目 4648

不動產売買仲介評價貸家斡旋
平宅地建物取引所
 認公
 平市・榎小路踏切際 色川材木店內電二三六一番

ネクタイ ワイシャツ
化粧品 バンド
平駅前大通 電5721

ランドセル 鞆 靴
平市二丁目 電5722

帽子 学生帽
平市三丁目大通電5723

百 合

春の行楽の相伴には
 寿司折と料理折をどうぞ
 寿司折 一一〇円より
 料理折 一五〇円
 赤司の
 江戸川
 平市才樋小路店
 電3021 4846
 平市紅小路店
 電2727 4845

